

## 「若者ととともに進める信州創生 ～若者タウンミーティング～」会議録

テーマ 「50年後の長野県を見こしたアイデアを考えよう」

日 時 平成27年8月26日（水） 午後1時40分から3時40分まで

場 所 屋代高等学校附属中学校（千曲市屋代1,000）

### 目 次

1	開会	・ ・ ・ ・ ・	P 2
2	発表 I	・ ・ ・ ・ ・	P 3
3	意見交換 I	・ ・ ・ ・ ・	P 7
4	発表 II	・ ・ ・ ・ ・	P 13
5	意見交換 II	・ ・ ・ ・ ・	P 18
6	知事総括	・ ・ ・ ・ ・	P 23
7	閉会	・ ・ ・ ・ ・	P 26

この県政タウンミーティングは、屋代高等学校附属中学校の3年生80名と行いました。  
なお、生徒の意見発表の際に使用した資料等は、省略してあります。

## 1 開会

### 【進行役生徒】

起立。

これより、「県政タウンミーティング『50年後の長野県を見こしたアイデアを考えよう』」を始めます。お願いします。スムーズに会が進むよう、進行へのご協力をよろしくをお願いします。

このテーマについては、7月に2時間の授業を行い、夏休みには発表準備をしました。今日は各班による提言発表です。また、本日は長野県知事 阿部守一様にお越しいただいています。全員で挨拶をしましょう。

### 【生徒全員】

よろしくをお願いします。

### 【進行役生徒】

阿部知事様、本日のタウンミーティングに対する期待や思いなどがございましたら、一言お願いします。

### 【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんにちは。長野県の知事をしています阿部守一です。今日は附属中学の皆さんと50年後の長野県を一緒に語れるということが大変うれしく思っています。今、日本全体も長野県も人口がどんどん減っています。そういった中で県では「信州創生」として、人口減少にどうやって歯止めをかけていこうか、そして、人口が減少する中でも元気で安心して暮らせる地域をどうするのかということを一生涯懸命考えています。私は1960年生まれですので、日本の人口がまだどんどん右肩上がりが増えていた時代でした。私が子供の頃は、こんな狭い島国で人口が増え続けて大丈夫かということ話し合ってた時期もありましたけれども、皆さんがこれから社会人として暮らしていく日本、そして長野県は、どんどん人口が増えていくんじゃないかと、どんどん人口が少なくなっていく社会の中で、皆さんは暮していくということになります。今、長野県の人口推計だと、何もしなければ、30年経ったら50万人減ると予測しているので、これは大変なことだと思います。長野市全体の人口が無くなっちゃうという規模です。是非これは、皆さんの若い柔軟な知恵で、どういう社会をつくっていけばいいのか、そのときどんなことをしていけばいいのか、私たちと一緒に考えてもらいたいと思います。皆さんより我々大人の方が少しだけ社会のことについてよく知っているの、皆さんのアイデアをしっかりと具体化していきたいと思いますので、是非、今日はですね、これまでの常識にあまりとらわれないで、柔軟な提案、発表をどんどんしていただければありがたいなと思って期待して来ました。よろしくをお願いします。私がいちいち長く話しすると皆さんの発表の時間がなくなっちゃうので、あとでまたいろいろお話をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

### 【生徒全員】

よろしくをお願いします。

### 【進行役生徒】

ありがとうございました。それでは、本日の会議の流れを説明します。発表の時間を前半と後半に分け、前半の8グループの後に、阿部知事様にもご参加いただいて意見交換を行い、後半の8グループの発表へと移り、同じように意見交換を行います。積極的に意見交換ができるよう、必要な事項はメモをとり、阿部知事に聞きたいことは各自で整理しておきましょう。各グループの発表は3分です。3分経過後ベルを鳴らしますので、発表を終わらせてください。意見交換のときには、阿部知事様からもご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

前のグループが発表するとき、次のグループは廊下で準備しててください。ポスターは黒板に貼らずに、手に持って提示してください。

では、A組「医療改革」グループは前へ、B組「医療」グループは廊下へ移動してください。

## 2 発表 I

(発表は、パワーポイントとポスターを使用。以下同じ。)

### 【進行役生徒】

では、発表をお願いします。

#### 【①医療改革グループ】

私たちは長野県の地域創生を医療の視点から考えました。

まず、長野県の現状の問題としては、地方の医師不足です。その原因として、生活のしやすさ等から都市部で仕事をしようとする医師が増え、地方に医師が来ないということがあげられます。そのため、地方の村や町の高齢者の方々が十分な治療を気軽に受けることができなくなっているという問題を抱えています。

そこで、私たちは二つの対策を考えました。一つ目は姉妹病院制度を導入することです。これにより、地方の病院にいる医師でも都市部のような先進医療を学ぶことが可能になります。また、県内の医師不足の深刻な医療機関に勤める医師には、県から補助金を出します。これにより医師を地方に呼び込むことが可能になり、医師が増えます。

しかし、この策では医師の増加はある程度限界があると考えられます。そこで、二つ目の対策「県民の健康への意識を高める」です。これは、先程の策の医師を増やすという視点とは反対に、患者を増やすという視点に重点を置きました。具体的な内容として、例えば市町村が住民の方々に歩数計を無料配布し、それを行った市町村に県が補助金を出します。運動には死亡率を減少させる効果があるので、意識だけでなく、実際に県民の健康維持にも繋がります。これによって、病院に行く患者が減るため、県民一人ひとりに充実した治療が行える上、県民が

健康になることで医師の負担の軽減にも繋がります。

以上の二つの策で、私たちは、長野県の医療面をもっと充実させたより良いものにしたいと考えています。ご清聴ありがとうございました。

### 【進行役生徒】

ありがとうございました。では、次のグループ発表の準備をお願いします。

では、発表をお願いします。(以下、繰返し部分は省略。)

### 【②医療グループ】

僕たちは長野県の医師不足について発表します。

現在、日本では医師不足が大変深刻です。特に、長野県では約522人もの医師が不足しています。そこで、このようなプランを考えました。日本全国の国公立大学の学生を対象に、奨学金制度を設けます。学生は6年間の学費を長野県に負担してもらい代わりに、卒業後に一定期間、県の指定する職場に勤務してもらいます。同じような仕組みの自治医科大学は毎年多くの人数が受験しているので、需要は十分あると我々は考えています。仮に、毎年40人として奨学金を支給し、14年間勤務してもらおうとすると、長野県の医師不足は計画開始から20年後に完全に解消されることとなります。しかし、費用は莫大な額がかかってしまいます。

メリットは、毎年少しずつですが県内から若い人が入ってくるということで、また、医療が充実しているということを県外にアピールすることができるということです。デメリットは、長期計画になってしまうということと、何よりお金がかかってリスクが伴うということです。ご清聴ありがとうございました。

### 【③育児支援計画グループ】

私たちは育児支援について3つの観点から発表します。

まず、子育て休暇についてです。右のデータをご覧ください。女性の就職率が高い国は育児休暇も長くなっています。女性の就職率が上がってきているので、私たちは育児休暇を長くすることを提案します。

次に、子育て支援金についてです。今の子ども手当の支給は中学生までで、それ以降の人達には支給されません。しかし、大学進学時には多くのお金が必要になり、大学進学をあきらめる人が多くいます。そこで、大学進学時には支援金を出します。また、所得の少ない人が優先的にもらえるように所得制限をつくります。

次に、子育て交流所についてです。初めての子どもで不安の多い母親は多いはずですが。そこで、母親が交流してそれぞれの不安を解消できるように情報交換をできる場所をつくります。さらにここでは、既に不要となった子ども用品を寄付してもらい、ベビーカーやベビーベッド等の子ども用品を譲り合うことができるようにします。

次に、認定こども園を増やすことについてです。認定こども園は保育園と幼稚園の基準を併せもつ保育施設です。メリットは、親の就業状況を問わないで入園が可能なところです。また、子どもの対象が0～6歳と広範囲であるところです。現在、長野県には16か所の認定こども園

がありますが、拡大する保育ニーズに応えるためには更なる増加が必要です。認定こども園を増やすために、認定こども園の先生には、幼稚園の教員免許と保育士資格が必要なので、同時に取得できる養成機関を設置すること。また、資格を持っていながら保育職から離職している人について、潜在保育士掘り起こし事業の強化を提案します。これらの案が実行されれば、長野県での子育てがしやすくなると思われました。ご清聴ありがとうございました。

#### 【④子育てグループ】

私たちはこれから「こどもを増やせ」というテーマの発表をしたいと思えます。

まず、長野県の人口の現状です。このグラフを見てください。青い線は基礎人口の推移を表しています。長野県の基礎人口は平成12年をピークとして、今まで減少していることが分かります。この増減予想では、今後も人口の減少が続くものだとしています。次に黄緑の線を見てください。黄緑は生産年齢人口、赤が年少人口を表しています。どちらも1950年から今まで減少していることが分かります。そして、この予想ではこのまま減少が続くとしています。次に紫の線を見てください。紫の線は高齢人口の推移を表しています。このグラフを見て分かる通り、高齢人口は今まで増加していました。そして、今後は横ばいの見通しです。このグラフから、私たちのグループは、子どもが減っていると考え、二つのプランを考えました。

プラン1です。「ながの貯金」とは、長野県民が一人1日1円ずつ納税をするというプランです。未成年者など自分の収入が無い人は、その分、家族の負担となります。月に一度、日数分をまとめて払います。欲しい子どもの数を持たない理由のグラフです。子育てや教育にお金がかかるといのが一番多いです。他にもお金の問題が多いです。

そこで、プラン2として「子育て補助金制度」をします。「子育て補助金制度」とは、子育てのための支援制度です。第2子が産まれたら50万円、第3子が産まれたら100万円、第4子が産まれたら150万円の補助金が支給されます。この補助金は、プラン1の「ながの貯金」で納められた資金から支給されます。そのため、長野県や親の負担の軽減になります。

「ながの貯金」と「子育て補助金制度」によって子育ての負担が減ることになります。その結果、理想の子ども数をもてます。また、長野県の少子高齢化の解消にもつながると予想できます。これで終わります。

#### 【⑤日本が世界に挑戦グループ】

僕たちは、地域の産業を活性化させるにはどのようにしたらよいかを主題にして考え、そしてプランを二つ立てました。

一つ目のプランは、企業誘致です。このプランによって経済力が強化されると考えます。まず、このプランについて説明していきたいと思えます。地方の産業を活性化させるために、地方に大企業を誘致することが必要だと考えました。そこから結論として生まれたのが、高速道路や国道の周りには大企業がたくさんあるという考えです。これが正しければ、大企業を誘致すれば人口が増え、また、大企業を呼び込むには交通手段が必要となります。今、スクリーンに映っているのは、先程言った高速道路と大企業の分布を記したデータです。これを重ねると、丁度、高速道路や新幹線等の交通網があるところに大企業が分布しています。つまり、あまり

交通網が発達していない地方に交通網をはりめぐらせれば、大企業など誘致できるのではないかと考えました。それによって期待できる効果は、大企業が分散され、多くの人を呼び込むことができ、結果的に過疎化、過密化を解消することができます。

次にプラン2を説明します。長野は農産物は強いので、農業を更に活性化することで長野全体が活性化すると推測しました。そのために、移住者へのサービスを充実させることが重要と考えました。その例として農地バンク制度があります。これによって移住者が農業をしやすくなり、使われていない田畑の有効活用ができます。また、日本、特に市町村が世界に挑戦できつつ、農作物をブランド化して新たなニーズ、特に都会の顧客をつくりつつ、地産地消で地元消費も活性化させることができます。そうすることで、安定した持続可能な農業を生み出すことができると思います。これで、僕たちの発表を終わります。

### 【⑥海外グループ】

私たちは長野県の創生を海外との連携という面から考えました。

今の市町村の問題として、人口の流出、高齢化、少子化の問題が見受けられます。そこで私たちは諸外国との連携を図り、主に人口の流出と少子化の問題を重点的に置いて発展させることを考えました。具体的に今、行われている例として、一校一国運動とインターナショナルスクールがあります。一校一国運動は長野オリンピックから生まれた運動で、異文化理解を深める活動、インターナショナルスクールはアジア、太平洋、グローバル社会のために新たなフロンティアを創り出すチェンジメーカーを育てています。このようなことをして、結果として子どもの頃から外国のことをよく知ることができます。

それに加え、私たちが考えたプランとして、交通網の整備をし、海外から旅行に来やすくなり、観光客が増えることで多様な文化への対応ができ、様々な文化圏からありとあらゆる外国人を受け入れられるような環境にします。その結果、海外からの移住者も増やすことができます。今はIT企業で働く外国人も多いようなので、IT企業を更に誘致することも一つの方法でしょう。結論として、インターナショナルスクール、一校一国運動により外国の理解を深め、外国人が働きやすい職場をつくることにより、外国人が住みやすい環境をつくることができ、移住者が増える。その結果、人口減少と少子化が抑えられると思いました。ご清聴ありがとうございました。

### 【⑦長野の自然を知るグループ】

まずはじめに、私は長野の自然を知るというテーマで発表します。具体的な解決策は期待しないでください。私が提示するのは抽象的なものです。

私は長野を都市にしようとは考えず、長野固有の自然で勝負しようと思います。見ていただいているとおり、日本有数の自然県である長野、この特徴を売りにしていきたい。しかし、問題があります。一つは絶滅危惧種の多さです。グラフのとおり、長野の生き物には絶滅危惧種が多数を占めています。原因は、環境破壊もそうですが、手を入れなさすぎる林が増えているというのも原因の一つになっています。二つ目、野生動物からの人的被害が見られます。原因は一のとおりと同じです。

これの対応について、私は、一番は県民が知ることだと考えます。知っていれば対応もできる、対策もできるという強みがあるのです。県がわざわざ解決に走る必要がなくなります。しかし現状では、生物多様性の認識度についてこの7年で大きな変化はなく、アンケートに回答した人数も2人と、非常に県民の理解が進んでいないと言えます。長野県は人が自然の一部である県というのを、私は目指すべきだと考えております。そのために、ここにあげた三つの他にも、この前の御嶽山であったり、他にも自然災害に対しての県民の理解を深めるべきだと私は考えています。これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

### 【⑧農業グループ】

農業を行って地域を活性化させようというテーマについて発表します。

長野県は都市部に向かう交通・道路が整備されているため、傷みやすい葉もの野菜を生産することが可能です。よって、長野県では現在収穫量の低い葉もの野菜を収穫すれば税収アップにつながるのではないかと考えました。はじめに、生産量の高い野菜の生産量を上げ、税収をアップさせることを考えました。現在、生産量が高いということは、効率的な生産方法が既に存在する場合も多いため、比較的簡単に生産量を上昇させられるのではないかと考えました。最後に、他国の伝統料理に使われている野菜を育てたり、用途がいろいろある野菜を育てたりすることを考えました。グローバル化に伴い食文化が多様化しているため、今は馴染みのあまりない野菜であっても、その伝統料理などをつくる店が増えれば安定した需要が確保できることや、新しい特産物として定着させることができると思います。

プラン2としては、プラン1の実行で税収が増えるので、農業の助成金を出したり農業機械を購入する人への補助金を出したりして、更に農家の作業効率やモチベーションを高めます。さらに、農家志望の居住者対象の説明会などを県が月に一度や二月に一度程度の割合で開きます。また、耕作放棄地等の土地を有効活用して農地の売買や貸借の仲介を県が行います。さらに、新規移転者の受け入れを行います。県や市町村が農家希望の移住者に対して受入先を斡旋します。農業従事者は高齢化の一途を辿っています。そのため後継者不足です。耕作放棄地の一部を県営の農地にし、農業初心者にレクチャーをします。一定期間、座学・実技を積んだ者を県が認定します。また、新規移転者のみ対象に、県が農業機器を低額でレンタルしたり、移住し農業に従事する人を対象に給付金を支給したりします。

プラン2による税収のアップで第1次産業従事者が増加して、市町村の人口が増えます。なので、農業によって得られた税金を介護福祉や子育て支援のために使用します。例えば介護だと介護士を目指す人への助成金が出たり、介護施設の建設費に充てたりします。子育て支援だと出産費用等を負担します。これで終わります。

## 3 意見交換 I

### 【進行役生徒】

ありがとうございました。では、意見交換の時間に移ります。お手数ですが、阿部知事様は

前の席にご移動ください。前半は各グループの発表に対する質問、後半は阿部知事との意見交換の時間とします。それでは、ここまでの発表を聞いて、質問、意見等を交換しましょう。意見等は大きな声でお願いします。では、いかがですか。

**【生徒A】**

一番最初の医師不足の対策で、姉妹病院制度というのをつくるって言ったんですけども、姉妹病院だったり健康への意識を高めて患者を減らすって言ったんですけども、患者が減ってしまったら病院の経営も続かないと思うんですけども。それいいんでしょうか。

**【生徒B】**

質問ありがとうございます。現状として医師不足という問題があると思うのですが、医師を増やしていくという政策にも多分将来的に限界があると思うので、医師不足という問題を医師を増やすという方向からでなくて、患者を減らすことによって医師の数と患者の数をいい感じにするというか、患者を減らすことによって、行き届いていない治療とかが全員にちゃんと治療を行き届かせることができるようになるということですか。

**【生徒A】**

高齢者が増えていることで、介護施設に空きが無い状態だということだったのですが。

**【生徒B】**

それも医師不足を解決すれば、高齢者に方々も健康になると思うので、介護施設とかも今の数でも足りるようになると思います。

**【進行役生徒】**

他に質問意見等ある人はいますか。(以下、繰返し部分は省略。)

**【生徒C】**

B組の海外のことについてのチームに質問なのですが、交通網を整備することで海外からの移住者を増やしていくと言っていたんですけど、具体的に交通網をどのように整備すれば人が増えるようになると思いますか。

**【生徒D】**

やっぱり海外から人を呼び寄せるので、長野県は海がないので、とりあえず、松本空港があるじゃないですか。それを、できればですけど、もうちょっと広くしてもらって、簡単な国際空港にでもできれば休日とかに来てもらったり、その知名度などもたくさん増えるので、結論として主に空港の発展というのが、そういうことです。

**【生徒E】**



四番目のB組の子育てで、長野貯金1日1円の実施、これ足りなくないですか。とりあえず長野県民100万人として計算してみたら足りない気がするんですけど。どうでしょうか？

#### 【生徒F】

ご質問ありがとうございます。私たちのグループは長野県民が200万人として考えてましたので、多分大丈夫だと思います。第2子が50万円、第3子が100万円、第4子が150万円です。

#### 【進行役生徒】

時間がないので、次に移らせていただきます。次に、阿部知事に伺いたいこと伝えたいことがあればお願いします。自分のグループ、他のグループの発表、どちらについてでもいいです。

#### 【生徒G】

知事をやっていらして一番大変だなと思うことはなんですか。いつとか、どういう時とか。

#### 【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。質問に答える前にまず、皆さんのすごい簡潔で要点の得たプレゼンテーション、ありがとうございます。もうちょっと深掘した方がいいかと思うところもありますけど、でも皆さんの着想はそれぞれ素晴らしいなと思ってお話を聞いていました。

県知事をやっていて大変ということですが、県知事はいろんな分野の仕事をやるので、それぞれの分野でやっぱり大変なことはありますね。この間、大変だったのは御嶽山の再捜査。私は県の対策本部長ですから、行方不明になられている方々の発見のために全力を尽くすという立場であります。と同時に、実際に火山活動が続いている中での捜索ですから、そこら辺の公園に人を探しに行くのとはまったくわけが違います。警察、消防の皆さんが文字通り命がけで標高3,000m級の御嶽山に登って、しかも火山噴火している近くです。足場も悪いような状況の中で捜索をするということですから、二次災害が起きないように細心の注意をしながら捜索をしたということで、結果的に5名の行方不明者の方、発見できずに再捜索終結をせざるを得なかったわけですが、ご家族の想いを考えると本当に無念の思いですし、片方で捜索にあたった人たちにいたずらにこれ以上捜索を続けるということは中々難しいということで、終結の決断をいたしました。私の仕事というのはどうするか決める仕事が多いです。予算を決めるのにもいくらしましようか、あるいはこの施設は造るか造らないか、そういう判断、決断をしてかなければいけないので、体が疲れるというよりは精神的な負担というのは日々実感しながら仕事をしています。だけど、県民の皆さんに支持していただいて知事の仕事させてもらっているんで、県民の皆さんの期待に全力で応えなければいけないな、そういうモチベーションを常に高く維持しながら日々の仕事をやっているというのが私の知事としての仕事の仕方です。日々いろいろ大変だなという部分もありますけども、でも全体とすれば、私が自分で立候補して知事の仕事をやっているわけですから、そういう意味では、やりがいを持って、ちょっと語弊があるんですけども、楽しく仕事をさせてもらっていると思っています。よろしいですか。ありがとうございます。

**【進行役生徒】**

他に知事に伺いたいこと伝えたいことあればお願いします。(以下、繰返し部分は省略。)

**【生徒H】**

自分たちのグループで交通網を張り巡らせるみたいなことを考えたんですけど、それはやっぱり国で決められてしまうものなんですか。長野県ではなくて。

**【長野県知事 阿部守一】**

交通網の整備は地域の活性化にとって、私も大事な視点だと思っています。交通網、いろんな種類の交通があって、それぞれ誰がどういう権限、あるいは責任を持つのか、そしてお金を誰が負担するのかというのは事業毎に違ってきます。例えば、松本空港の話がありましたけど、松本空港は誰がつくった空港ですか。どこがつくった空港ですか。松本空港は県営空港ですから、あれは県が作っている。新幹線は誰が作っているかな。新幹線は、基本的に国が整備新幹線法で整備をしているんですけども、実際に建設するのは鉄建公団で、それをJR東日本で走らせている。道路は皆さんがよく聞いている国道と県道と市町村道があって、国道はもちろん国ですよ。だけど、少しややこしいけども、ここの18号線みたいな二桁の国道は国が直接管理していますが、三桁の国道は県が管理しているので、結構複雑です。今、皆さんがプレゼンしてもらったような基幹的な交通網をどうするかというのは、もちろん全国ネットワークに関わる話です。今、長野県内の高速交通網で整備を進めているのは、佐久からずっと高速を中央自動車道まで繋げて、その先が山梨県側で東名高速まで繋げていこうという中部横断自動車道の建設を進めています。あれは国の事業ですから、国がしっかりと進めてもらわなければいけないので、私たち長野県は、国にもっと整備を推進してくれとお願いをしています。それから松本空港の話が出ましたけれども、なんとかもっといろんな路線が就航できるようにしてくださいというお話はいろんな方からもあるので、そういう要請は私が受けています。ですから、交通網も、道路だったり鉄道だったり空港だったりありますけれども、それぞれ責任の所在が違います。同じ道路でも違うし、例えば空港でも国が管理するでかい空港と我々みたいな地方空港とはまた別ですし、そういう意味で、ものによって整備の主体と責任の所在が違っているので、そういうところはまた皆さんでよく勉強してもらおうと思いますので、よろしくお願いします。

**【生徒H】**

ありがとうございます。

**【生徒I】**

長野県全体を通して、自然以外の個性や魅力、経済の活性化目的として県外に売り出している点等があったら教えてください。

## 【長野県知事 阿部守一】

長野県の強みはいろいろあると私は思っています。今、おっしゃってもらったようにひとつは自然環境があります。これは観光客を惹きつけるという魅力でもありますし、今、移住定住の促進ということで取り組んでいますけれども、長野県みたいな優れた環境のところで暮らしたいという人たちが最近増えています。例えば、今年から「森のようちえん」の認定制度をつくりましたけれども、都会の人たちは長野県のような自然環境の中で子ども達を育てたい、だから長野県に移住したいという人も実際にいます。そういう意味で、一つは自然環境がありますよね。

それから、これは必ずしも外に発信ということだけではないですけれども、さっきの発表の中にも医療の話がありました。長野県は健康長寿日本一、男性も女性も平均寿命が長い県です。それで私が海外に行ったりすると、長野県の知事が来るから長野県で一体どんなところだろう、って皆さん調べるからなんだと思いますけれども、「長野県はどうして長寿なんですか？」っていうことを必ず聞かれます。この長寿ってというのは、単に暮らしている人たちが元気ですねということだけではなくて、長野県のブランド力を高める上でも今は非常に役立っていると思っています。例えば、長野県の新鮮な野菜を売り出すときに、「健康長寿の長野県で作った〇〇です。」と言えば、「なるほどそうだな。」と思ってもらえる部分もあるので、健康長寿は私たち長野県にとって今、ひとつの大きな発信の柱でもあると思っています。

あとは、長野県は今まで産業の牽引役がものづくり産業、製造業です。今、県としては次世代産業に長野県のものづくり産業が転換できるように支援をしていこうと取り組んでいます。例えば、航空宇宙産業の振興年として県としても取り組んでいます。航空宇宙産業、航空機ですよね、飛行機とかロケット。実は去年、アメリカへ行ってボーイング社に行ってきました。皆さんもボーイングの飛行機に乗った人もいますけれども、あのボーイングの飛行機の中には、長野県で造られた部品も使われているわけです。飯田にある多摩川精機の副会長さんと一緒にボーイング社に行ってきました。ボーイングと直接取引をしている会社です。一次下請、二次下請、飛行機をつくるにはいっぱい部品があるんですけど、多摩川精機はボーイング社と直接取引をしているので、若い多摩川精機の社員の人たちが、ボーイング社の人たちと英語で直接交渉したりして、やっぱり長野県もすごい企業もあるな、と私も改めて感じました。そういう企業が長野県にもいろいろあって、世界のいろんな企業と取引しているということは、また皆さんも是非、勉強してもらえればと思います。

長野県の発信できる売りってものは、いっぱいあると思っています。去年から山の日をつくったので、山も長野県の特徴です。来年は国民の祝日としての山の日ができます。何日か知っていますか。8月の11日が国民の祝日の山の日になりますけれども、山の日全国大会の第1回は、長野県の上高地で開催されることが決まっています。今、長野県は山岳高原観光地づくりということを進めようとして取り組んでいますけれども、山だとか高原だとかそういうことも県外に発信する大きな魅力だと思っています。

また、善光寺だとか松本城だとか、長野県には国宝もいっぱいあります。自然も豊かだし、歴史とか文化、来年は大河ドラマ「真田丸」が決まっていますけれども、真田幸村をはじめとして、長野県ゆかりの人たちがいろいろ登場すると思いますけれども、歴史や文化も豊富な長

野県です。数え上げればきりがありませんし、私も知事としていろんなところで長野県を宣伝しているので、そういう話をしだすと時間がなくなっちゃいますが、結構、県民の皆さんが知らない日本一っていうのがいっぱいあります。美術館、博物館の数が日本一だとか、日帰り温泉の数が日本一だとか、長野県はいろんな素晴らしい強みを持っていますし、また、自分たちの故郷の優れたところは一体なんだろうかという観点でも、是非みんなで調べてお互い教え合っ、て、共有してもらえると嬉しいなと思います。以上です。ありがとうございます。

#### 【生徒 I】

ありがとうございました。

#### 【生徒 J】

今日、私たちが提案しているような、こういった新しい政策をやるときっていうのは、結構いろんな問題があると思うんですが、その中で一番重要だと思うものって何でしょうか。

#### 【長野県知事 阿部守一】

今、8つのチームから発表してもらって、例えば具体化しようと考えたときに、いくつか考えなくてはいけない点があると思います。それは、一つ、先ほど質問がありましたけれども、本当に財源確保できるのかという点。長野県は私が知事になってから、なるべく借金を減らそうということで財政改革に取り組んできていますけれども、毎年予算を組むには、税収がどれくらい見込まれてどれくらい歳出があるかということを考えながら予算を組んでいますけれども、結構厳しいです。さっき言ったように、人口がどんどん減っています。人口が減るということは、今までと同じことをやっていたら税収は基本的に減っていく方向になりますから、そういう意味では、高度経済成長時には、毎年どこの自治体でも税収がどんどん増えて、新しいことをやろうかと考えていけば良かったですけども、これからの社会は、今までやっていたけれどもどこをやめてこうかということをもとに考えないといけない時代になってきているので、そういう意味では、お金をどうやって捻出するかということがひとつ大きなテーマとなっています。それから、子育て支援みたいなご提案ももらってますけれども、行政には国があり県もあり市町村もあって、県民から見ると、国も県も市町村も何やってるんだかよく分からないところもあると思います。例えば、子育て支援というのは、保育所の運営は多くの部分を市町村が担っています。そうすると、県がこんな子育て支援をやろうと考えたときには、市町村としっかり話を合意をした上でないと、勝手に県だけで決めて進めるということではできません。これは市町村との関係だけでなく、いろんな事業に関係者がいますので、関係者の皆さんと話をしっかりして、これならいいよね、こういうことならみんなで協力してやっ、ていこうねという合意を固めていくことも、お金の確保と同じように重要だと思っています。細かいことをいろいろ言っていますが、基本的にはそういうことをしっかり行った上で政策化していくということになります。いいですか。ありがとうございます。

#### 【進行役生徒】

時間となりましたので、ここで意見交換を終了とします。ここで、5分間のトイレ休憩をとります。

#### 4 発表 II

##### 【進行役生徒】

では、発表をお願いします。

##### 【⑨伝統グループ】

僕たちは長野県の若者の都会への流出を防ぐことが、若者による長野県の発展に繋がるのではないかと考えました。そこで、雇用の増加のためにも、地域に根付いて発達してきた伝統を発信する事業の設立を提案します。ここでは郷土料理であるおやきから、事業の設立に繋げていきます。

プラン1は、都市部への移動販売です。都市部へ移動販売することにより、長野県だけでなく他県にもおやきの魅力を知ってもらうことができます。おやきの魅力を知ってもらうことにより、人気の上昇を目指します。このとき、都市部の若い世代のニーズを知り、それと伝統であるおやきを組み合わせることで、革新的で人気が出る商品が生まれるのではないのでしょうか。おやきに関すると言えば、生地や具にいろいろな工夫を加えることができます。また、これは他の伝統料理や伝統工芸品も言えることです。

インターネットを利用して販売することによって、消費者が注文しやすくなり、需要が拡大します。また、インターネットを利用することによって多くの人に知ってもらうことができ、更なる需要の拡大に繋げることができます。これにより見込まれる効果は、おやきが有名になって消費が増えることによって、地域の活性化に繋がるということと、二つ目は、その企業が発展していくことで、雇用が増して、そのため若者の都市部への流失を防ぐことができます。また、伝統を現代のニーズに合わせた形に変化させていくことで、それによってその伝統に対する人気を確保するとともに、伝統を次世代へと継承していくことにも繋がると思います。

繰り返しになりますが、このおやきのように、地域と根付いて発達していったものを事業にすることで長野県には活気が生まれます。また、雇用の増加にも繋がるので、職を求めて流出する若者も長野県内で働こうと考えるのではないのでしょうか。今回のおやきはあくまで一例なので、まだまだ数多く存在する郷土料理や工芸品などを次世代に継承するためにも、伝統の企業化を提案します。これで伝統についての発表を終わりにします。

##### 【⑩住みやすい街・長野グループ】

私たちは、都市化交通施設の面から「住みやすい街、長野」と題して発表します。

最初に新幹線についてです。プランとして、長野名古屋間の新幹線を通すことを提案します。現在名古屋まで行くのに約3時間かかりますが、新幹線を通すと約1時間で済みます。これは長野県民にとっても便利ですが、名古屋からも人が来るようになり、また、後程説明する施設

にも人が集まるようになると思います。

次に道路についてです。プランとして道を舗装し直し、その際に道幅を広げ歩道を設置することを提案します。これによって車線が整理され、道での見通しも良くなり、交通事故の減少が見込まれます。また、歩く人が増え、車の利用が減少することも見込まれ、これによって二酸化炭素排出量増加の抑制、渋滞の解消も期待できます。

次に電車についてです。私たちはまず、上田松本間に電車を通すことを提案します。現在、上田から松本へ来る交通手段は、電車で篠ノ井まで行ってから松本へ行ったり、車でもかなり時間がかかったりします。なので、上田から松本間の移動が便利になれば生活も便利になると考えられます。また、電車の運賃を安くすれば、利用する人も増え、移動しやすくなるので、より住みやすい街になると考えられます。

次にショッピングプラザについてです。現在は、軽井沢に大型ショッピングプラザがありますが、それ以外にもショッピングプラザをつくります。先ほどのプランと合せると、県外からも買い物に来る人が増え、長野県の経済の活性にもなると思います。これを実行するには多大な費用がかかりますが、県内にない店が増えたりなど、長野県がより良くなると考えています。

最後に遊園地その他施設についてです。プランとして遊園地など遊べる施設をつくることを提案します。現在、長野県にはあまり遊ぶための施設がありません。県民だけでなく、県外から人が来たときに、そのような施設がないと、若い人たち、家族連れなどにとって魅力的に思えないのではないかと考えたため、このプランを提案します。

以上の五つを私たちは提案します。

### 【⑩若者グループ】

長野県には若者が必要不可欠です。図表のように、若者の人口は減少の一途を辿っています。長野県に若者を呼び戻さなければならないのです。若者にとって、魅力的な長野県をつくるためのプランが必要となります。

プラン1は大学についてです。現在、県内の高校生の東京、神奈川、埼玉への進学率は合計45.3%なのに対して、自県内への大学への進学率は16.4%と非常に低いことが分かります。そこで県内に大学を増設する、学部を増やし大学の質を高めるというプランを提示します。このプランによって、県内に進学する人を増やし、都市部への若者の流出を減らすという効果が期待できます。また、大学の質を高めることにより、企業への就職をより有利にできると考えます。

プラン2は交通についてです。地方の交通手段は、都市に比べて非常に少ないことが問題点として挙げられます。そこで、バスを小さくしたり予約制にしたりすることで走る本数や路線を増やすなど、地方の交通公共手段の便を良くします。このプランにより、地方にも交通手段が充実することで、不便さからの引っ越しによる人口の流出が減るという効果が期待できます。

プラン3は、店・就職です。若者を集めることができる場所のひとつにショッピングモールなどが挙げられます。ショッピングモールに若者を集めるために、若者に需要があるようなお店を増やす必要があると思います。高級な店ばかりではなく、流行を取り入れていて10代や20代に人気のお店があれば、買い物のために若者が多く訪れ、県外に行かなくても買い物ができ

るので、若者の流出を防ぐことができます。

プラン4は住宅についてです。私たちは若者がここに住みたいと思ってもらえるようなサービスを3点提案します。少ない土地でたくさん住めるようアパートやマンションを増やす、賃貸を何%かオフにする、ローンの金利を下げる、です。このような若者対策は、奇跡の村と呼ばれる下條村などでも行われています。これによって期待できる効果は、引っ越してくる若者、定住する若者が増える、またプラン1と繋がるのですが、安く住めるならここら辺の大学にしようかなという若者が増える、の二つです。

これで若者グループの発表を終わります。

### 【⑫長野のお財布を豊かに！グループ】

私たちは「長野のお財布を豊かに！」というテーマで発表を進めていきたいと思います。

まず、私たちが感じる問題点を挙げます。1. 人が来ない。2. 高齢化により街に活気がない。3. 目立ったイベントが少ない、です。これらの問題点を解決するために、ひとつは長野県の歴史をモチーフにしたイベントをつくること。もうひとつはお祭りで地域を盛り上げていくことです。

一つ目の解決策の歴史を生かしたイベント、川中島の合戦をイメージしたイベントです。観光客、家族、歴史好きの人向けのイベントです。楽しめるし歴史の勉強にもなります。ここでゲームについて説明したいと思います。私たちが考えたオリジナルのゲームです。参加者を上杉チームと武田チームに分けて、兜とスポンジの刀を使って、兜についている風船を割ります。5分間で多く風船が残っていたチームの勝ちです。このような企画を考えてみてはいかがでしょうか。

二つ目の解決策です。お祭りで地域を盛り上げていこう。ここでは、長野県ではたくさん魅力的なお祭りがいっぱいあるんですけども、ここでは、私が個人的にPRしたいお祭りと、全国にもっと広めていきたいお祭りと、面白いなと思ったお祭りの3つを紹介します。まずは竜神まつりです。これは私の地元のお祭りなんですけれども、全長45mの親竜と30mの舞姫が和太鼓と一緒に舞います。45mの親竜は全国でも最大級の大きさと言われていて、とても迫力があります。全国にもっと広めたいお祭りです。えびす講は全国屈指の花火大会です。全国の花火師にとって、えびす講の花火大火に参加することは出世花火と言われ、花火評論家が一度は見ておかないと、と絶賛する花火大会です。最後に面白いと思ったお祭りを紹介します。爆水RUNです。川の中を走る、泳ぐ、歩くことによって川の魅力を再発見できるお祭りです。東京などに出てしまった県民の方に子どもの頃を思い出してもらいたいなと思います。

まとめます。歴史イベントでは県内の方に楽しんでもらうことができ、お祭りは地域で協力してお祭りを成功させることによる地域活性化と来場者数を増やすことによる経済の活性化を図ることができます。県内の方にも県外の方にも、長野県の今まで知らなかった魅力や楽しさに気づいてもらえたらいいなと思います。

### 【⑬人口・倍増計画グループ】

これから移住についての発表を始めます。(注：寸劇スタイル)

「移住者、倍増計画！」

「あー長野県に移住したいけど、不安がいっぱいだなー、家もないしお金もないし仕事をするあても少なそうだ。でも、将来は農業をしたいんだよな。どうしようかな。」

「そんなときは、僕たちにまかせて。」

「あなたたちは誰？」

「僕たち、移住者お助けレンジャー！僕たちに何でも聞いて！」

「長野県に移住したいけれど、一軒家がないんだ。安く借りられるかな？」

「心配ないさ！長野県には空き家がいっぱいあるんだ！これらは将来的には県が買い取り、改築し、安く貸し出したり買取ってもらえるようにするんだ！」

「でも僕、今、IT企業に勤めているけど、長野県にIT企業って少ないんじゃないの？」

「心配ないさ！僕たちは今、東京都にたくさんあるIT企業を長野県に移そうと考えているんだ！どうだい？」

「そうなんだ。でも、やっぱり移住するとなるとお金がいっぱい必要じゃん？家族もいるしさ。」

「心配ないさ！！。長野県では、保育費用の補助をしているんだ」

「それなら、新しく家族ができたときも安心だね。あと、将来農業やりたいんだけど、農業ってお金がかかるでしょ。」

「なんくるないさ！！使う回数が少ない農業機器などは県が貸し出そうと考えているんだ！どうだい、これで君も長野県に移住したくなっただろう？」

「うん。まあ、住みたくなりました。」

『移住者が増える』＝『人口が減らない』。これで長野県の未来は明るいぞ！」

これは、僕たちの計画が実現したときの、架空の物語です。

#### 【⑭Welcome to NAGANO 観光イベントグループ】

僕たちは観光やイベントで長野県の発展を目指し、そのために3つのプランを提示します。一つ目は、夏フェスの開催。長野県でロックフェスをやります。地元バンド、アイドルを売り込みます。そうすればバンドやアイドルが目的の観光客が来ます。しかし、有名でない地元のバンド、アイドルだけのフェスでは人は集まりにくいです。そこで、フェスの最後には大物ゲストを呼び、集客を図ります。フェスの開催場所はオフシーズンの夏のスキー場。ここでは無料のゴンドラで観光客を運び、郷土料理の出店を多くつくり、長野県について知ってもらいたいと思います。長所は地元バンド、アイドルだけでなく、ゲスト目的の観光客が来ます。郷土料理と長野について知ってもらいます。しかし短所は、運営費やゲスト呼ぶとすごいお金がかかることです。

二つ目です。2016年にNHK大河ドラマ「真田丸」の放送がスタートします。この機会をうまく使うことがとても重要だと思います。ドラマが放送されれば、観光客の増加などが期待できることでしょう。知名度が高いので、放送前から宣伝告知をすれば、より多くの人々がドラマを視聴し、長野県にも足を運んでくれるということが期待できると思います。

三つ目です。長野県でお見合いをするというのは、若い世代の人々が県内に住んでもらう一



番合理的な考え方です。そのためには、長野県の素晴らしいところを知ってもらわなければなりません。結婚が人口増加を引き起こし、参加者が増えるサイトを確立すれば、国内での人口減少を県自ら少しずつ抑制できることになると思います。

これらの三つのプランによりまして、長野県の人口増加に繋がるというわけではないのですが、間接的に長野県のことを知ってもらって、長野県への若い世代の移住が増えると思っています。今後、こういう企画から、しあわせ信州という目標に向けてイケイケどんどんで盛り上げていければいいなと思います。以上です。ご清聴ありがとうございました。

#### 【⑮人口減少に適したまちづくりグループ】

私たちは「人口減少社会に適したまちづくり考える」というテーマで発表します。

長野県の市町村合併を大々的に行い、長野、松本、上田、小諸のあたりと、諏訪、伊那、飯田あたりと中心に5つくらいにまとめ、過疎地の居住者に中心部に移住してもらって、集団住宅的なものを建てて、住むのが不可能な場合は、特別な場合を除き自己管理でお願いします。そして、空いた土地を自然に返します。縮小後は、一度開拓した場所を自然に返すのはなかなか大変なのですが、計画的に極力自然に近い状態に戻します。そのあとは開拓しないで、猟友会の整備費を削減し、整備費が浮くと思うので他の事業にまわしたり、この事業の経費全体に充てます。これによって人口が減っても地域振興が可能です。

計画のメリットです。まず、人間が自然に手を入れすぎることがなくなり、結構荒廃しつつある環境が、保たれると考えます。①により、野生鳥獣の生息地、食料等を守り、鳥獣の人里への出没を減少させられるため、鳥獣被害も少なくなると考えられます。人を中心部に集めることにより、地域間での情報伝達が容易になって活性化がしやすくなり、地域差もそこまで起きにくいと思われれます。これで終わります。

#### 【⑯「長野」流出を流入へグループ】

政策1、空き家バンクです。長野県は空き家バンクをやっている、移住者が来るのが多いんですけど、もっと積極的にやったほうがいいと思うんです。長野県に移住者が来るっていう大半はこれなので、もっとこれでやっていって移住者を増やして人口を増やすっていうのが目的です。空き家バンクっていうのは、来る人はほとんど定年を迎えた人だと思うんですけど、そういう人たちが来たときに、若者が来ないと意味がないじゃないかっていうときのための空き家バンクをして、畑とかを一緒にあげるということを考えています。更にプラスして、農家希望の人に農業を無料で教えてあげることで、農業ができるメリットがでて、それによって、それを継ぐ人たちもでてくるんじゃないかというのが案です。期待できる効果としては、田舎に人口が集まることで、田舎の方がちょっと都会化するというのが期待できる場所です。

次、ふるさと納税ですね。これは相当有名で、知ってる人が多いと思います。これは、利益が出るっていうことなんですけれども、何を見返りとして渡すかっていうことで、売れているやつは全部、見返りの価値が大きいもの、電化製品とかが人気です。なので、例としては、諏訪のエプソンであったり安曇野ではバイオだったり、そんな電化製品にする。他には、長野県の野菜、畑とかをやることでリピーターをある程度増やすっていうのを提案します。期待できる

効果としては、市町村でお金が増えてそれによって市町村の都会化が進むっていうのを期待しています。

また、交通を發展させることで、空き家バンクの効果を上げることができます。田舎からまちへ、まちから田舎へということができるようになり、人やモノの動きが活発化します。ご清聴ありがとうございました。

## 5 意見交換 II

### 【進行役生徒】

それでは今までの発表を聞いて、質問、意見等を交換しましょう。

### 【生徒K】

人口減少に適したまちづくりに質問します。過疎地にいる人を中心部へ移るっていう話だったと思うんですけども、そういう人を中心部に移動するのは、過疎地に住んでいる人っていうのは、その住んでいる地域に対して何かしら思い入れがあると思うので、そういう地域を捨てて中心部に来るっていうのはちょっと難しいように思うんですが、それに対して何か解決策みたいなのはありますか。

### 【生徒L】

そうなんです。住民の反対があるのは重々分かっているんですが、今回に関しましては、人民うんぬんよりも、どうすれば環境を保ち、かつ、鳥獣で死んだりやられたり、そういうのを防ぐかっていうところにあって、住民に結構な負担になっちゃうんですが、このプランに関しては仕方ありません。

### 【生徒M】

人口減少に適したまちづくりに質問なのですが、人口減少に対して歯止めはかけないんですよ。そういう政策をとらないんですよ。人口減少しているってことは、税収もそれなりに減少するわけなんです。それなのに、山林を自然に戻すとか、そんな大々的に金かかることをやって、本当に大丈夫なのかなって。

### 【生徒L】

その後の整備費の浮きでなんとか盛り返す予定です。試算はもちろんあります。こっち側に寄せることによって、プレゼンにあったように、猟友会も多分いずれいなくなると思うんです。それで、林業費用は少しはとっておいた方がいいんですが、主には猟友会の今までの経費をすべて捨て去ることによって補填して、いずれはという形です。

### 【生徒N】

また、すみません。⑮なんですけれども、合併を行って大きめのくりにしちゃってと言っただんですけれども、長野県は広いんで、地域ごとの特色ある伝統とか文化とか、いろいろ長野県の特徴があると思うんですよ。そういうのも重んじていった方が。そういうのが失われてしまうのはちょっともったいないと感じるんですけど、大きく分けることによってそういう特色が失われてしまうことは、どう思いますか。

#### 【生徒L】

特色は潰すつもりはありません。もうひとつ大きいくりにすることによって、支所もどんどん少くなり、ひとつのでっかい支所に今までたくさんあった市町村役場の人が集められると思うんです。伝統的なものに関しては、保持は可能と考えています。

#### 【生徒O】

⑯の長野の流出を流入にというのに関して、2、3ヶ月農業をしているっていう記述があって、米作りだと2、3か月じゃ無理だなと思ったのと、空き家に住んでいる人に農業を教えるっていうのは、空き家の近くに農家があるっていうのが前提条件な気がするんですけど、どうしょうか。

#### 【生徒P】

農業の教える機会っていうのが、2、3ヶ月って言ったんですけど、それは目安みたいなものなので、1年でも大丈夫だと思います。前提条件だというのは、すごい田舎のところを人を増やすというのが目的なので、そういう空き家を貸すのは、そういう近くに畑とかがあるようなところが前提なので。

#### 【進行役生徒】

それでは次に、阿部知事にお伺いしたいこと、伝えたいことがあればお願いします。(以下、繰返し部分は省略。)

#### 【生徒Q】

前半でお話されていたと思うんですけど、どの事業をやるのにもやっぱりお金が必要で、長野県にそこまでお金に余裕がないと先程おっしゃっていたんですけど、経済を発展していくにはやっぱり事業を行わなければいけない、その事業を行うにもお金があるので難しい話なんですけれども、大きな事業をやるときには大きな資金が必要で、でもその代わりうまれる経済効果は大きいと思うんですけど、まずはじめに今、資金があまりない状態で、どういう事業から始めていった方がいいと思いますか。

#### 【長野県知事 阿部守一】

地域の産業経済どうするかというのは、地方創生のなかでも大きなテーマだと思っています。私は大きく2つ視点があると思っています。

ひとつは地域内の経済循環をもっとしっかりとまわしていく。しあわせ信州創造プランという県の中期5か年計画がありますけれども、そこでも環境エネルギーに地域の創造をうたっています。例えば、エネルギー。電力、電気を使っていますけれども、長野県と言わず、だいたい日本は多くのエネルギーを海外に依存していますよね。石油だったり天然ガスだったり。エネルギーを使えば最終的には海外に依存してかえってお金もかかるという構造になっていますけれども、長野県を見渡してもらえば、さっきも話していましたが、森がいっぱいある、水は豊富にある、水が流れる急峻な地形もあって、太陽の光にも恵まれている。木質バイオマス発電であったり、あるいは小水力発電であったり、太陽光発電であったり、そういうエネルギーをもっと身近でつくれますよね。長野県の場合、寒いので、夏場より冬の方が最大電力需要は大きいですが、その最大の電力需要に対して、長野県の大規模な水力発電を含めての再生可能エネルギーで約7割まかなってます。毎年夏と冬には県民の皆さんに呼びかけて、省エネ省電力をやっているのと同時に、片方で自然エネルギーをどんどん増やそうと取り組んでいますので、これを100%に持っていく、これ理論値ですが。長野県で発電した電力、東京とか大阪とかに向けられている部分もあるので、必ずしも県内で全部まわっているわけではないですが、県内で発電した電力で理論的には100%にもってくのも夢じゃないと思って、そういう目標を立てて取り組んでいこうと思っています。これはエネルギーの話ですが、例えば食べ物。長野県の旅館に行って、私は気になっているのは、未だに海のお魚出してくれるところが結構多いなど。例えば長野県でも信州サーモンをつくったんですね。今、大イワナの開発をやったりしています。もっと身近なところでお金をまわす。せつかく稼いだお金を単に県外とか海外に流失させてしまうのではなくて、もっとも地域資源を活用して地域内にお金をまわすということが可能だと思っていますし、そのことが経済を元気にしてくれるというひとつの手段だと思っています。地産地消とよく言われますけれども、最近のテーマは地消地産です。地産地消っていうのは右肩上がりの時代の発想ではないかと私は思っています。なぜならば、自分のところで作ったものを自分のところで消費しましょうですから。右肩上がりのときには、とにかく何か作れば売れるんです、パイが広がっていますから。これからは作ったって売れないかもしれない。同じものを作ったら確実に販売量が減っていく時代ですから、むしろ、地域で消費するものをどうやって地域でつくれるように変えていくかということ、生産も流通も含めてしっかり考えていくということがひとつ重要だと思っています。

それからもうひとつは、とは言え、長野県も日本全体も人口がどんどん減っていくわけですから、国内だけに目を向けていては発展の可能性は限られてくると思っています。長野県には観光地がいっぱいありますけれども、例えば、今までは国内の修学旅行とか宴会旅行のお客さんを相手にしていれば良かったかもしれないですが、これからは、それでは観光も成り立たなくなるのは確実だと思っています。じゃあどうするか。今、インバウンドということで、海外からのお客さんの誘客に力を入れています。今年の観光庁の統計だと、長野県には66万人海外からの宿泊者数があるということになっています。統計の取り方が非常に荒っぽいので、ちょっと正確性を欠いているのではないかと思っていますけれども、66万人っていうのはまだまだ増やせる可能性が大きい数字だと思っています。日本とは逆で、世界の人口はどんどん増え

続けています。特に、身近なアジア圏は所得水準も上がっているし、人口も増え続けている。こういうところからもっとお客さんを来てもらえるような環境をつくっていくことによって、長野県の産業経済を元気にという視点が重要です。これ、観光だけではなくて、農産物ももっと海外を視野に入れて展開をしていかなければいけないと思いますし、また製造業については既に世界とたたかっています。そうした中で、さっき言った航空宇宙であったり健康医療であったり、これからの社会という、世界中が求めているような技術力をどうやって県内の企業が身につけていくか、そういうところが重要になってきています。

地域内でしっかりお金を循環させる、そして世界の活力を長野県に取り込む、この二つの方法の中で、さまざまな産業経済を研究していくということが必要だと思っています。よろしいでしょうか。

#### 【生徒Q】

はい、ありがとうございます。

#### 【生徒R】

住みやすいまち長野と題して提案をさせていただいたんですけれども、知事が思う住みやすいまちとは、どんなまちだと思いますか。

#### 【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。私の住みやすいと思っているまちを言いますから、あとであなたがどんなまちがいいのか聞くけど、逆に教えてもらいたいですけれども。

私は今、地方創生でどういう県にしようかなと考えている中で、東京みたいにはしたくない。ちょっと異論があるかもしれないので、いろいろ皆さんの意見を聞きたいんですけれども、東京みたいにはしたくないなと思っています。東京は元気そうに見えるし、なんか強い街のイメージがありますけれども、私は長野県の方が意味、何と言うか、柔軟な強さ、強靭さ、強くてしなやか、そうした地域だと思っています。例えば、さっき人口の高齢者のデータをどこかのチームが出してもらっていましたが、長野県の高齢者の絶対数は、もうちょっとするとだいたい横ばいになってきます。今までも高齢者がどんどん増えて、医療とか介護の費用がかかって大変だという時期を経験してきましたけれども、これからは大都市の方がどんどん急速に高齢者の絶対数が増えてきます。そういう中で、長野県の強みは、私は人と人との繋がりが強いことだと思っています。去年の白馬神城断層地震、大きな地震がありました。あれだけの家屋が倒壊して、亡くられる方がいなかった。長野県外の人に言わせると、白馬の奇跡だと呼んでいる人もいます。でも、私は奇跡じゃないと思っています。東京でも同じことが起きれば、多分奇跡なんですよ。でも白馬村の人たちは日頃から顔の見える関係で、ここにはどんなおじいちゃんが住んでいるか分かっていることはもとより、夜どこの部屋で寝ているかということまで分かっているんで、建物が倒壊してもすぐ助けに行けた。これは長野県の強みですよ。東京とか横浜とか大都市で、もちろん近所付き合いしっかりしている街もいっぱいありますけれども、隣に住んでいる人が一体誰だか分からない、名前も分かんないという地域

はいっぱいあります。こういうところで、災害が起きたら一体どうなってしまうんだろうと思います。それからさっきエネルギーの話とか食料の話をしましたけれども、東京って自立している地域だと思いますか。私は全然自立していない地域だと思っています。食料の自給率は1%、電力もさっき言ったように、長野県からだって送っています。水や空気、そういうものは東京でも一部ありますけれども、でも私たち長野県とかいわゆる地方と言われているところが担っているわけでありまして。今、人口がどんどん東京に集中して問題だとなっていては、都会で活躍している人たちを育てているのも私たち地方ですから、言い方悪いですが、東京は実は地方に大きく依存している地域だと私は思っています。そういう意味で東京みたいにはならないと。右肩上がりの経済成長、人口がどんどん増えている時代は、東京みたいな発展モデル、都市化していくことが、ある意味で望ましい方向性であったと思います。それは教育も同じで、画一、大量生産、こうしたことが求められている社会の中では都市に人が集まって、みんなが同じような仕事に従事して、それで経済を発展させ社会を発展させる、そういう時代が長く続きました。でもこれからは、一人ひとりの価値観も多様化しているし、本当に画一的な生き方とか働き方とか、そうしたものではない、心の豊かさを求めている人たちが増える時代になってきています。私は、長野県は東京の発展型を後追いするんじゃなくて、むしろ長野県から新しい暮らし方とか働き方とか、そういうものをつくり出す県でいなければいけないだろうなと思っています。県として今、例えばアウトドア県みたいなことが出来ないかと思っています。アウトドアっていうのはスポーツのアウトドアもちろんもっと振興していかなければいけないと思っていますし、さっきのロックフェスティバルの話みたいなものは、私は皆さんの若い世代の提案としては大変いい提案だなと思って聞いていました。せっかくこんなに広い土地があって豊かな自然があるんで、そういう中で、もっともっとロックフェスティバルだったり音楽祭だったり。こんなの絶対東京ではできないです。さっき言った「森のようちえん」、長野県が進めようと考えているのも、逆立ちしたって都会の真ん中でなんかできないですね。そういう長野県の特徴をもっともっと伸ばしていくということが、私は将来的には人を惹きつける魅力になってくると思っています。ものすごい具体的なまちの話で言えば、この間、上田の映画館の人といろいろ話したんですけど、最近映画館に行く人が少なくなって経営的には大変だというお話もありました。今まで映画館というのは、民間企業がやってるんでしょ、勝手にやってよというのが行政のスタンスだったんじゃないかと思いますけれども、まちの賑わいとか、あるいは潤いだったりをつくるのに、私は映画館ですごく大きな役割を果たしているんじゃないかなと思っています。そういう意味で、もっと長野県内に映画館がいっぱい増えてもいいんじゃないかなと思いますし、買い物の場所の話もありましたけれども、若い人たちが東京まで行かなくても、長野県の中で、これカッコイイね、クールだね、というものが買い物できるような場所をつくっていくことも大事だと思います。それから、アウトドア関係者の人と「アウトドアいいよね。」って私が話したときに、反論されました。「知事、アウトドアもいいけど、アウトドアだけじゃダメなんです。」と言われました。なぜなら「アウトドアは天気がいい時はいいけど、天気が悪いと全然楽しくない。何にもできない。だからインドアで楽しめる施設もセットで考えていかないといけない。」と言われて、なるほどなと思いました。どんなものでもいいのかっていうのは、これは本当は行政が考えるんじゃなくて、こ

んなの楽しいよね、これだったら人が集まって我々も儲かるし、まちも元気になるんじゃないかということ、民間の人たちがもっと考えてもらいたいと思います。この施設がいいあの施設がいいということを行政がやっていると、多分硬直的な話にしかならないです。是非、皆さんみたいな若い人たち、あるいは長野県でも、行政じゃなくて、もっと企業の人たちがまちづくりに関心を持ってもらって、映画館はひとつの例ですけども、こんな施設があったらもっと楽しいよね、こんなものがあれば人が集まるよねという知恵をどんどん出してもらって。これが必要だっていうことがあるればそういうものを、私たち行政は税制上だったり、あるいは、あんまり民間の活動に補助金を出すのは私はどうかなと思っていますけれども、場合によっては一部補助金を出したり応援して、元気なまちをつくっていききたいなと思っています。

そういう意味で、最初に言ったように、逆に聞きたいです。皆さんがこういうまちだったら長野県にずっと住みたいなと思っていることで、今の長野県に欠けていることは一体何があるのか。これは私の感性じゃなくて、多分皆さんの感性のほうが正しいと思います。私は右肩上がり成長していた時に生まれた世代ですけど、皆さん2000年生まれ？2000年生まれっていうのは長野県の人口がもっともピークなところですから、皆さんの世代がまさにこの人口減少社会の長野県を背負って立つ世代ですから、こんなまちがいいっていうのを是非、具体的な形で描いてもらいたいと思いますし、そういう皆さんの思いを私たちが応援していききたいと思っています。

何かこんなものがあればいいっていうのがあれば言っていただければと思いますので、よろしくお願いたします。

### 【生徒S】

私が考えている住みやすいまちというのは、第一は自然を大切にすることなんですけれども、知事がさっきおっしゃっていたように、都会の方とか、今、発信源になっているところを補うだけじゃなくて、長野が発信源となれるように独自のことを考えたりして行って、新しいものも取り入れたり、前々からあったことも取り入れられるようなまちがいいかなと思っています。

### 【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございます。ぜひ、そういう県にしていきたいと思っていますよね。みんなで協力してください。

### 【進行役生徒】

時間なので終わりにします。それでは、今日の県政タウンミーティングを受けて阿部知事様よりお話をいただきしたいと思います。阿部知事様、よろしくお願いたします。

## 6 知事総括

### 【長野県知事 阿部守一】

もっといろんな人の意見を聞かせてもらえればよかったんですけども。今日は16チームの発表をいただいてありがとうございました。私もなるほどなと思うものとか、県もそういう方向で考えているのでそれはやっぱりしっかりやってかなければと思ったものとか、いろいろあります。簡単に少しずつコメントしたいと思います。

医師の話がありましたね。医療改革とか医師っていう部分。私がいいなと思ったのは、姉妹病院制度。これ、どうするかっていうのはありますけれども、面白いアイデアだなと思います。なぜなら、私は都会と地方がもっと協力連携した方がいいと思っているからです。今まではなんとなく地方と都会、地域同士が競争して競い合っていくっていう感じになっていましたけれども、これからはさっき言ったように、実は都会の課題と悩みは多いのです。逆に、長野県もいろんな悩みがあります。そういう悩みをお互い協力し合って解決していくことが重要だと思っていますので、医師が足りないっていうことも、ぜひ大都市側と長野県が連携することでクリアしていくということが、視点としては大変いいんじゃないかと思って聞きました。歩数計の話もありました。健康づくり。皆さんにもエースプロジェクトのパンフレットを配ってますけれども、今、健康づくり県民運動、エースプロジェクト、アクション・チェック・イート、運動して検診受けて食べ物に気を付けましょうという運動をしっかりと広めていこうと思っています。これは、しあわせで健康でいてもらうことが、結果的には医療費の削減にも繋がっていくと思っています。こうした着眼は素晴らしいなと思います。それから医師不足解消のための学費負担ですけども、県としてもお医者さんの修学資金の貸付制度というのを取り組んでいます。皆さん、もしお医者さんになってくれる人がいたら、是非なってくださいね。医師不足ですから。それで、県外行って勉強してもいいから、ぜひ長野県に戻って来てドクターをやってもらえれば、私は大変嬉しいです。修学資金貸付制度は月20万円ずつ貸します。県内でお医者さんになってもらえれば返さなくていいという制度ですから、一番いっぱいもらうと一人1440万円。知らなかった？こういう制度もあるので、考えてもらえれば嬉しいなと思います。

それから子ども支援、子育て支援。これも長野県、大事な視点だと思っていて、子どもの医療費助成の県の補助対象を拡大しました。今まで長野市だけちょっと遅れていましたけれども、来年度からは中学校を卒業するまで全員、医療助成の対象になるということで、全国的にも長野県の対象は広いです。所得制限をかけている県が多いですけども、長野県は所得制限ないですから、全ての子どもたちの医療費助成、来年度からは全県で中学校卒業するまでは対象になるということで、結構進んでいる県です。今年からもうひとつ、保育料の助成も県として増えましたので。子育て支援もっと頑張れ、という皆さんの声を今日ももらったので、もっともこの辺は考えていきたいと思います。それから、長野貯金。税金ね。人口定着・確かな暮らし実現会議っていうのをやっていて、子育て支援の税も検討したらどうかという意見も出ています。また、皆さんにもこういうご提案をいただいたので、少しよく考えていきたいなと思います。

それから企業誘致は、長野県はもちろん企業誘致これまでも進めていきましたし、これからも必要だと思っていますけれども、なんでもかんでも誘致すればいいという話ではないんじゃないかと、実は思っています。今までは人口どんどん増えていたので、働く場所が必要なんですということがありました。でも、人口が減っていくっていうことは、働く場所がありすぎて困



っちゃうんですね。働く場所がありすぎると、人出が足りないということになります。今、長野県の有効求人倍率は1.2を超えている状況が続いていまして、いろんな業種で人出が足りないと言われていています。そういう中で、ちょっと前までは働く場所をどんどんつくろうというふうにやっていました。もちろん、これからも必要な産業を活性化していくし、働く場をつくっていくことは大事ですけども、それと同時に、人出不足になっているところ、例えばお医者さんとか医療福祉関係っていつも人出が足りないんですよ。そういうところの雇用をどう確保するか、ミスマッチを解消するか。片方で失業している人もいる反面、人出が足りなくて困っている業種もあるので、そこをしっかりと考えていくことが、人口減少の中では大事な話だと思っています。

あと、外国からの移住者って話もあって、これは移民の受け入れどうするかという極めて難しい論点が含まれているなと思っています。ただ、例えば長野県の観光誘致するときに、スキーのインストラクター、もっと外国人でも指導できるようにならないか、在留資格をもっと緩和できないかというようなことは、これまでも県としても国に要請しています。外国との関係で人をどう増やすかっていう視点も大変重要だと思います。

一つ一つコメントしていると時間がなくなっちゃうんで、ぱつと言っちゃいますけれども。農業とか自然の話がありましたが、長野県の農業は果樹とか野菜の園芸作物が中心ですけども、私は、やっぱりさっきの地消地産もそうですけれども、なるべく地域の中で付加価値を高めていくことが大事だと思っています。付加価値。一生懸命やっても儲けるところは他の県に持ってかれてしまっちは元も子もないだろうなと思っています。何年前か、うちの子どもが木工大工をやらなきゃっていうんで、どうせやるなら長野県の木材を使おうと思って長野市内のホームセンターを回ったら、長野県の木が何処にも売ってないんで愕然としましたけれども、それは長野県には大きな製材所が無くて、いっぺん県外で製材して、そしてもう一回必要であれば県内にバックしていくという流通になっているからだとお話を聞きました。さっきも言ったように、もっとも県内での地消地産率を高めていくということが重要だと思います。今、県としてワインバレー構想って言うのを進めています。ワインというのは、ぶどうの栽培から醸造と生産過程があって、そして観光地としてのワイナリー。6次産業の典型的なものですが、いいものを作って加工は他県みたいな話だと、一番儲かるところを他県にもってかれちゃってる状況ですから、もっと知恵を出して、儲かる部分を長野県で担えるようにしていかなければいけないだろうと思っています。

あと、まちづくりの話があります。伝統の継承っていうのは大事だと思っています。新しいことをどんどん進めるだけじゃなくて、やっぱり長野県の個性、伝統、こうしたものを私たちがしっかりと認識しなければ、世界に行った時に、長野県で何にもないところ、中身のない県ねという話になってしまうと思います。グローバル化、国際化が進めば進むほど、自分たちの地域が本当にどんな地域なのか、あるいは日本という国は一体どういう国なのかということを知らなければ、海外の人たちとしっかりと会話することは難しいと思います。教育委員会にお願いして、信州学というのをもっとしっかりとやれないかな、地域のことをもっと勉強しようよという取組も進めています。是非、地域のことをもっと皆さんも勉強してもらいたいと思います。

それから、移住者の話。長野県は移住したい県ナンバーワンです。「田舎暮らしの本」という移住の専門誌がありますけれども、9年連続日本一です。それだけ長野県に暮らしたいな、長野県素晴らしいなと思ってくれている人が多いわけです。空き家の話とかもありました。今、移住者のデータがちゃんと取れていないですけども、住むところ、働き方、働き場所の斡旋、そうしたことも含めて、移住したい県ナンバーワンだけでなく、移住者ナンバーワンの県を目指して頑張って取り組んでいきたいと思います。さっきの空き家バンクの説明のときに、畑を一緒にあげるって言う話があって、いいよねと思っています。私なんかは、畑だけじゃなくて、長野県には山がいっぱいあるので、山付き住宅って言ったら都会の人達は絶対来るんじゃないかなと思っています。

もう時間になっちゃいました。右肩上がりの経済成長とか人口が増える社会は、もうしばらくは来ないです、どう考えても。出産適齢の女性の絶対数が既に減ってますから。今、出生率が2.1ですね。急に回復したとしても、人口はしばらくは減り続けます。ですから、人口が減る中でどうやって豊かな暮らしを維持するのか、人口が減る中でもどうやって楽しく、そして元気な地域を維持するのか、是非、皆さんもこれからも一緒に考え続けてもらいたいなと思います。

大学の話がありましたけれども、新しく県立大学も平成30年に開校する予定で検討しています。一年生は全員、寮に入れます。そして、全員海外の経験をさせようと思っています。グローバルな視点を持ってイノベーションを起こせる人材をつくるというのが新しい県立大学の理念ですが、私は県立大学だけじゃなくて、長野県全体がそういう県になっていかなければいけないと思っています。常に視野は世界に開きながら、でも、実際に取り組むことは地に足が着いた地域のことを思い、地域の人たちと協力して取り組む、そういう長野県にしていきたいと思っていますので、是非、附属中学校の皆さんにはそうした思いを私どもと共有していただいて、これからも頑張って勉強して、スポーツにも取り組んで、長野県のために、そして日本のために活躍できる人材になっていてもらいたいと思います。

時間になりましたので、私の話は以上とします。ありがとうございました。

## 7 閉会

### 【進行役生徒】

本日は積極的な意見交換、ありがとうございました。とても充実した会になったと思います。皆様のご協力のおかげでスムーズな会の進行が出来ました。ご協力ありがとうございました。

以上で「県政タウンミーティング『50年後の長野県を見こしたアイデアを考えよう』」を終わりにします。

起立。礼。ありがとうございました。